



ダメ！高齢者虐待

介護・世話の放棄 (ネグレクト)



息子さんと2人暮らしのBさん(85歳)は、数年前から物忘れの症状が現れ、徐々に見守りや介護が必要になってきました。部屋はごみや物が散らかり、Bさんは時々つまずいて転ぶこともありました。

息子さんは、Bさんの見守りや介護をどうしたら良いのかわからず、一人で悩んでいました。また、Bさんも息子さんに遠慮し、次第に食事や入浴の回数が減っていき、やがてBさんは体調を崩し、家で寝ていることが多くなってしまいました。

最近Bさんを見かけないことを心配した民生委員さんが地域包括支援センターへ相談。その後、Bさんは病院を受診し、自宅内の環境整備、配食サービス、デイサービスなどを利用することで、体調が良くなりました。高齢者虐待は、たたく、つねるなどの身体的な行為だけではなく、水分や食事を与えない、入浴をさせない、病院を受診させない、部屋を汚したまま放置するなどの行為(介護・世話の放棄)も含まれます。

介護している家族が一人で張り過ぎていたり、介護方法が分からずストレスを抱えていたりすることは少なくありません。介護サービスを利用したり、介護の知識を得たりするなどして介護の負担を軽減し、リフレッシュを図ることも大切です。

『何かおかしい』
『どうしたらいいんだろう』
そう思ったらお気軽に相談窓口
に連絡してください。

▼高齢者虐待に関する相談窓口
高齢・介護グループ(☎55720)
または地域包括支援センターあおい(☎330511)
ゆのか(☎2106)
けいあい(☎5005)

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別市食生活改善推進員協議会

食生活改善推進員は、国民の健康づくりを目的に、各市町村で養成を進めているもので、市では平成7年から食生活改善推進員養成講座を開催しています。

登別市食生活改善推進員協議会は、この養成講座を修了した方を中心に、20歳代から70歳代までの女性40人で結成し、幼稚園や小学校の家庭教育学級をはじめ、老人クラブ、町内会などで開かれる料理教室の講師を務め、食生活の改善指導を行っています。

「食生活で大切なのは、塩分を控えて、バランス良く食べることです」と話すのは、会長の渡辺礼子(わたなべれいこ)さん。

「子どもからお年寄りまで、おいしく食べることができ



子どもや男性の方にも、食に関心をもってもらえるとうれしいですね



▲楽しく調理実習をする推進員の皆さん

料理法や、気軽に作る事ができるメニューを紹介しているほか、親子料理教室や男性のための料理教室の開催にも力を入れています。子どもや男性の方にも、食に関心をもってもらえるとうれしいですね」と、渡辺さんは活動の内容を話してくれました。

昨年10月に入会した玉根美由紀(たまねみよのり)さんは、「友人に誘われて入会しました。最初は不安でしたが、料理方法の意見を自由に出し合えるなど、会の雰囲気は和気あいあい。結成時から活動している方のお話は、とても参考になります。わたしも楽しみながら活動していきたいですね」と笑顔で話してくれました。

入会を希望する方は、渡辺さん(☎2755)まで。